

令和4年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市名

三重県

学校名

四日市市立富洲原小学校

人権課題

子どもの人権

対象学年・
取り扱った教科等

2年・生活科

目標・人権教育のねらい

- ・好きな色や職業を選ぶことは、だれにとっても大切な自由の1つであることに気づく。
- ・家の人がいろいろな仕事をしていることに気づき、これから自分がやってみたいことや、やっていきたいことについて考える。
- ・多様な家族の形態や生活があることを知り、わたしの大切な人について考える。
- ・自分の成長を確かめ、支えてくれた人々への感謝の気持ちを手紙に書くことができる。

実施した内容

- ・「わたしの好きな色」「おとなになったら、何になりたいか。」について話し合う。
- ・家の仕事を3つ取り上げ、自分の家の仕事を見つめ、友だちと交流する。自分がやっていこうとする家の仕事について考える。
- ・自分にとって大切な人を考える。「わたしの大切な人」について作文を書く。
- ・自分が「いつ、どのようにして」成長してきたのかを考えたり、よく声をかけてくれる人や世話になっている人等から聞き取ったりする。支えてくれた人々への感謝の気持ちを手紙に書く。

工夫した点

- ・「タンタンタンゴのパパふたり」「わたしのお母さん」などを読み聞かせし、今まで持っていた自分の価値観だけでなく、多様な家族の形態や生活があることに目を向けさせ「わたしの大切な人」についての作文を書かせた。
- ・自分の成長してきたエピソードを聞き取る中で、家族が自分の成長してきたことへの喜びを感じていることを自分自身で気づき、自分の家族に対して見つめ直させた。

他教科との
関連

- ・学級活動にて、自尊感情を高める学習をした。
- ・特別の教科道徳にて、自他のちがいや自分の好き嫌いにとらわれないで接することについて学習した。
- ・自分の生活についての作文を書く活動を継続して取り組んだ。

事業成果

- ・性的指向、性自認の学習とも係わり、なりたい自分になることや、自分が多くの人から愛情を受けていることについて実感する子どもの姿が見られた。

令和4年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市名

三重県

学校名

四日市市立富洲原小学校

人権課題

女性

対象学年・
取り扱った教科等

1年・生活科

目標・人権教育のねらい

- ・家庭での家事分担に占める女性の割合の高さがわかる。
- ・家の仕事や外での仕事は性別に関係なく、家族みんなで支え合っていくことの大切さがわかる。
- ・自分にできることを考え、家での仕事に参加する意欲を持つ。

実施した内容

- ・「家の仕事調べ」を行い、どんな仕事を、誰がしているのかについて調べる。
- ・「家の仕事調べ」を交流し、気づいたことや各家庭でのちがいを話し合う。
- ・家事や外での仕事など、内容によって性別が偏っていることについて考える。
- ・「家の仕事調べ」交流で思ったことや感じたことを作文に書く。

工夫した点

- ・仕事調べの交流の際は、ひとり親家庭の子どもに配慮し、詳細な情報は聞かないようにするなど、個人情報の取扱いに注意した。
- ・これから自分にできそうなこと、やってみたいことを作文に書く活動を通して、自分の家族の仕事に目を向け、自分から参加する意欲を高めることができた。

他教科との
関連

事業成果

- ・それぞれの家庭のくらしを交流することによって、男女の固定化した役割分担ではなく、それぞれの家庭にはそれぞれのくらし方があり、それは性によって決められたものではないことに気づく姿が見られた。

令和4年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市名

三重県

学校名

四日市市立富洲原小学校

人権課題

障がい者

対象学年・
取り扱った教科等

3年・総合的な学習の時間

目標・人権教育のねらい

- ・障がい者に対する偏見や思い込みを取り除き、障がい者の人権を尊重し、共に生きていく意識を育む。
- ・当事者本人の問題でなく、社会にあるものが障がいとなっていることに気づく。
- ・障がい者に対して自分たちができることを調べ、障がい者の現状や課題について理解を深める。

実施した内容

- ・ボッチャの体験を通して、たくさんの人が楽しく参加できるスポーツがあることを知る。
- ・ボッチャ以外のパラスポーツについての調べ学習に取り組み、新聞を作成する。
- ・学級や地域の中で、みんなが一緒に暮らしていくために大切なことは何か、自分にできることはないかを考える。

工夫した点

- ・パラスポーツを調べる際、ルールを調べるだけで終わらず、どうしてそのルールになったのか、工夫されているところはどこか、などを考えさせながら取り組ませた。
- ・まずは教師から自身の体験を語ることで、子どもどうして自身の体験や思いを話せるような場にした。
- ・活動にあたり、メディア・リテラシーと関連させた評価基準を設定したうえで行った。

他教科との
関連

- ・国語科にて、「パラリンピックが目指すもの」について学習した。

事業成果

子どもが、実際にボッチャに取り組むことで、競技としての楽しさや難しさを体験し、障がい者に対する「かわいそう」という感覚がなくなったという意見や感想が出された。

令和4年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市名

三重県

学校名

四日市市立富洲原小学校

人権課題

部落問題

対象学年・
取り扱った教科等

6年・総合的な学習の時間

目標・人権教育のねらい

- ・決めつけや偏見から人間関係のゆがみや差別が生じていることを知る。
- ・「清め塩」が四日市仏教会によってなくなってきたことを知り、「ケガレ」意識に対する解決の道筋がつくられてきたことを知る。
- ・自分の中にも、決めつけた見方や偏った考え方がないかを振り返ることができる。
- ・学習を通して、差別をなくすために自分ができることを考え、行動する。

実施した内容

- ・「『丙午』迷信」「龍安寺の石庭」「銀閣の庭園」「春日権現霊現記」などの学習を通して、決めつけた見方や偏った考え方が自分たちにもないか振り返る。
- ・「清め塩」の学習から、死を「ケガレ」としてとらえることのおかしさに気づく。
- ・「葬儀屋を営む地域の人との出会い学習」から、「ケガレ」意識にまだとらわれている人がいることのおかしさに気づき、憤りを感じる。

工夫した点

- ・地域の方からお話を聞くことで、より身近な問題としてとらえさせた。
- ・「葬儀屋を営む地域の人との出会い学習」では、聞き取りの話から「ケガレ」意識の部分を教材化した。
- ・足利義政や杉田玄白など、差別する人々の価値観にとらわれない生き方に視点をあてた。
- ・自分も知らず知らずのうちに差別をしてしまっている側になっていないか、自分自身を見つめさせた。

他教科との
関連

- ・社会科にて、「基本的人権」「身分制」「解体新書」「渋染一揆」について学習した。

事業成果

- ・これまでの学習をもとに、「ケガレ」意識について担任が自分の経験を語った姿から、自分のこれまでの経験を振り返り、自分の生活の中にある「ケガレ」意識について語り合う子どもの姿が見られた。

令和4年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市名

三重県

学校名

四日市市立富洲原小学校

人権課題

外国人

対象学年・
取り扱った教科等

4年・総合的な学習の時間

目標・人権教育のねらい

- ・様々な国につながるのある人のくらしぶりや文化を自分で調べたり、学級の外国につながるのある友だちやその家族に聞いたりすることで、その国や人々のくらしに親しみを持ち、知ったことを新聞にまとめたり、その国のよさを紹介できたりする。
- ・日本に暮らす外国につながるのある人との出会いから、思いや願い、活動、生き方を知り、外国につながるのある人に対する自分の見方やかかわり方について考える。
- ・外国につながるのある友だちの思いや願いを知り、自分にできることは何か考え、気持ちを返したり、行動で表したりする。
- ・「〇〇人」と国やカテゴリーでひとくくりせず、一人ひとりと出会うことでその人のよさに注目し、自分もまわりも多様な一人であることに気づく。

実施した内容

- ・様々な国につながるのある人やそのくらしぶりや文化を自分で調べたり、外国につながるのある友だちやその家族に聞いたりすることで、その国や人々のくらしに親しみを持ち、知ったことを新聞にまとめたり、その国のよさを紹介したりする。
- ・日本に暮らす外国につながるのある人に話を聞き、自分を振り返る。
- ・外国につながるのある人との出会いを振り返り、これから自分にできることを考え交流する。

工夫した点

- ・国を調べる際には、「学級に在籍する外国につながるのある友だちのことをもっと知るため」など、なぜその国を調べるのか根拠を明確にさせ、その国を調べる価値を大切にしながら調べる国を決めさせた。
- ・より身近な問題としてとらえるために、学年に在籍する外国につながるのある家族に来校してもらい、実体験や子どもたちに対する思いや願いを話してもらった。
- ・人権問題は、子どもに考えさせるだけではなく、教師も自身の体験を語ることで、子どもと共に考え、教師自身の人権意識を問い返すことを大切にしたい。

他教科との
関連

- ・特別の教科道徳にて、人との共生について学習した。

事業成果

- ・外国につながるがあるAさんが、取組を通して自分につながるのある国に誇りを持ち、自分や家族の暮らしについて発表し、意見を交流することができた。

令和4年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市名

三重県

学校名

四日市市立富洲原小学校

人権課題

インターネットによる人権侵害

対象学年・
取り扱った教科等

3年・総合的な学習の時間

目標・人権教育のねらい

- ・インターネットを利用すれば手軽に情報を入手できるが、インターネット上にはまちがった情報も多く存在することを知る。
- ・インターネットで得た情報を鵜呑みにせず、よく考えてから利用しようとする態度を育てる。
- ・インターネットを利用することによって起こりうる人権問題について知り、人権侵害を起こさないように気をつける態度を育てる。

実施した内容

- ・公益財団法人 反差別・人権研究所みえより講師の先生を招き、人権とは何か、メディアを活用していく上で、大事にしていくことは何かを教えてもらう。
- ・教えてもらったことをもとに自分の経験を振り返り、これまで同じようなことがなかったか、これからどうしていけばよいか交流する。
- ・インターネットで拡散したまちがった情報は多くの人を混乱させ人権侵害を起こすことを知る。

工夫した点

- ・学習したことや子どもたちが考えたことなどを学級通信で保護者に伝え、メディア・リテラシーについて、各家庭でも考えてもらえるように啓発した。
- ・特別の教科道徳の教材『インターネットの情報は必ず正しいの?』も活用し、繰り返しメディア・リテラシーについて考えさせた。

他教科との
関連

- ・特別の教科道徳にて、「インターネットの情報は必ず正しいの?」について学習した。

事業成果

- ・インターネットによる人権侵害は、日常のなかまづくりや人権学習に係わっており、自分たちの人間関係や人権意識を振り返ることができた。

令和4年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市名

三重県

学校名

四日市市立富洲原小学校

人権課題

性的指向・性自認

対象学年・
取り扱った教科等

1年・生活科

目標・人権教育のねらい

- ・無意識に固定的な見方や考え方を持っていることに気づく。
- ・性別に関係なく、好きなものを選んでよいことを知る。
- ・一人ひとりのちがいを理解し、尊重し合うことが大切なことを理解する。

実施した内容

- ・グループごとに「女の子のぼうし」「男の子のぼうし」に色を塗り、どうしてその色を選んだのかペアで話をする。
- ・黒板に貼り、気づいたことや感じたことを、全体で意見交換し、性別によって思い込んでいることがないか考える。

工夫した点

- ・全体的な傾向とは異なる色や、男の子にも女の子にも共通して使われている色も取り上げつつ、性別と色との固定観念に気づくことができるようにした。
- ・男女で分けた色の傾向と一人ひとりの好きな色は必ずしも一致しないことを確認した。
- ・好きなおもちゃ、好きな遊びなど性別によって好みが分かれそうなものをいくつか取り上げ、好みにも多様性があることに気づくよう促した。

他教科との
関連

事業成果

- ・性別を固定的な見方でとらえていた子どもが多く見受けられたが、多様な性の在り方について、生活の身近な場面を取り上げて考えさせたことによって、性に対する決めつけた見方をとらえなおすことができた。

令和4年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市名

三重県

学校名

四日市市立富洲原小学校

人権課題

その他（新型コロナウイルスに
係る人権侵害）対象学年・
取り扱った教科等

5年・総合的な学習の時間

目標・人権教育のねらい

- ・これまでに学習してきた「患者の人権」を振り返り、新型コロナウイルス感染症に関連する偏見や差別について考え、適切な行動をとることができるようになる。

実施した内容

- ・四日市市教育委員会「人権学習教材集～新型コロナウイルス感染症を通して学ぶ～」を教材として活用し、感染症に対する忌避意識による差別的な言動を起こさず、正しく判断する力をつける。

工夫した点

- ・これまで取り組んできた「患者の人権」の学習を振り返りながら、正しい知識を学ぶことが差別をなくすことにつながるという視点を大切にして、取組を進めた。
- ・ワクチン接種については、接種は強制するものではなく、考え方や体質によって接種できないことがあることにも留意した。

他教科との
関連

- ・総合的な学習の時間にて「患者の人権を通して考えよう」「公害と人権」について学習した。

事業成果

- ・これまでに学習した人権学習をもとにして取り組んだため、患者に対する誹謗中傷を差別としてとらえ、自分の身近に起きる感染症の一つであるとして学習を進めることができた。